第１回　国際標準化対応支援委員会／運営委員会　国際会議報告書

資料 No.	＜SC3D 関係＞国際会議申請書
1-3／SC3D-①	SC3D「電子部品ライブラリ」ロンドン国際会議出席報告書　20080310-20080312
資料 No.	＜TC47 関係＞国際会議報告書
1-3／TC47-①	TC47/PT62258「半導体デバイス／ベアダイプロジェクト」ルーベン国際会議報告書 20080305-20080306
資料 No.	＜SC47A 関係＞国際会議申請書
1-3／SC47A-①	SC47A/WG2「集積回路／デジタル IC」Nantes 国際会議出席報告書　20080409-20080410
1-3／SC47A-②	SC47A/WG9「集積回路／EMC 測定方法」Nantes 国際会議出席報告書　20080407-20080408
資料 No.	＜TC93 関係＞国際会議報告書
1-3／TC93-①	TC93/WG2「デザインオートメーション」サンホゼ国際会議報告書 20080219－20080221
資料 No.	＜CISPR 関係＞国際会議報告書
1-3／CISPR-①	CISPR SCI/WG4「マルチメディア機器に関する EMC」コペンハーゲン国際会議報告書 20080219-20080221
資料 No.	＜TC113 関係＞国際会議申請書
1-3／TC113-①	TC113/WG3「ナノエレクトロニクス 」東京（JEITA）国際会議出席報告書　20080408-20080409
1-3／TC113-②	TC113/WG3「ナノエレクトロニクス 」東京（JEITA）国際会議日本開催経費収支報告書 20080408-20080409

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：1-3／SC3D-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 3 月 27 日

（報告者記載）整理番号：H19SC3D③

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：南野典子　報告書作成者氏名：荒木純夫　（会社名）（株）ビューポイント情報科学研究所

出席会議名(半角)	区分	組織番号(TC/SC/TA)	SC3D (半角)
SC3D/WG2	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名称(日本語)	電子部品ライブラリ
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	
開催期日	2008 年 3 月 10 日 ～ 2008 年 3 月 12 日		
開催場所	（国名）イギリス	（都市名）ロンドン	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Reinhard Nerke	幹事国　ドイツ	
参加国及び参加人数	5ヶ国、主な国名 オランダ，ドイツ，イギリス，オーストリア日本、参加人数（9）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○荒木純夫(ビューポイント)，三谷 脩，村山廣(東芝)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

今回は Convenor が Reinhard Nerke 氏に交代して最初の委員会であった。

SC65E WG2（制御機器）とのジョイントミーティング

初日は SC65E WG2 とのジョイントミーティングであった。

SC65E WG2 からの 61360 データベースへの情報の実装について，要求事項の審議が行なわれた。今回の委員会では具体的な要求事項が出てきており，61360 自体の修正およびデータベースの改造について，短時間ながらその要点が審議されている。

IEC 61360 シリーズ全体状況の審議

SC65E　WG2 とのジョイントミーティングを受けて，61360 データベースの改造についてさらに突っ込んだ審議が行なわれた。また，チェンジリクエストに対してどのように対応するか，具体的なツールと 61360 データベースからのアウトプットについて，これまでになく具体的な方法論の審議が行なわれた。

1990 年に SC3D が始まって以来約 10 年間，今回のような具体的な方法論の審議が行なわれずに概念論に終始し、会議に参加していても隔靴掻痒の感がずっとつきまとっていた。振り返ってみると，61360 は元々フィリップスの当時の半導体部門の社内規定が IEC の規格になったものであり，「フィリップスの社内で実際に使われているのだから，何か問題があるのだろうか」という考え方が，委員会に強くあったように思われる。日本からは当時の EIAJ の意向を受けて，一言で言うと「これでは使い物にならない」ということを言い続けていたが，日本からの指摘による動きは，他の要因もあって反応はあるものの遅々として進まずという感じであった。例えば，"ISO/IEC Directives Supplement — Procedures specific to IEC"の"Annex J Procedures for the maintenance of the IEC standards in database format"で規定されている手順は，1994 年の幕張会議の時の SC3D WG2 での審議で提案された手順が原形であるが，SC3C の 60417 や TC3 の 60617 が先行し，61360 で実際に適用されたのは提案されてから 10 年後であった。

SC65E WG2 とのジョイントワークをきっかけに「使い物になる」という観点で具体的な内容の審議が増加し，SC3D WG2 の活動は大きく変わったように思う。ただし，日本にとって不利になるような提案が行なわれる可能性も増えたわけで，このタイミングで SC3D の委員長が日本人になったことは大きな意味を持つ。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：1-3／TC47-①（事務局記入）　　様式 4
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 4 月 4 日

（報告者記載）整理番号：H19TC47④

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：田中政樹　報告書作成者氏名：永広祐一　（会社名）(株)東芝

出席会議名(半角)	区分	組織番号(TC/SC/TA)	TC47／PT62258(半角)
TC47/PT62258	□TC □SC □TA □WG ☒PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名称(日本語)	半導体デバイス／ベアダイプロジェクト
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	
開催期日	2008 年 3 月 5 日 ～ 2008 年 3 月 6 日		
開催場所	（国名）ベルギー	（都市名）ルーベン	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	米国	幹事国 韓国	
参加国及び参加人数	4 ヶ国、主な国名 米国、独、英国、日本、参加人数（7）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○永広祐一（東芝）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

PT62258：
背景：半導体ﾍﾞｱﾀﾞｲに関する IEC 規格を作成するﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄﾁｰﾑが 2001 年 1 月に承認され、欧州のﾍﾞｱﾀﾞｲ仕様書 ES59008 をﾍﾞｰｽに米国/日本の意見を取り入れる形で国際版ﾄﾞﾗﾌﾄを作成している。
目的：半導体ﾍﾞｱﾀﾞｲを調達する際にｻﾌﾟﾗｲﾔｰとﾕｰｻﾞｰの間でどのようなﾃﾞｰﾀｰをどのような形式でやりとりするかのｶﾞｲﾄﾞ作りであり、最低要求事項(minimum requirement)を定義している。
成果：
① 62258-Part-10；今回のﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ会議でﾁｰﾑ･ﾄﾞﾗﾌﾄとして完成させ 1st-CD として提案できるﾚﾍﾞﾙまでにしました。本来、IEC62258-Part-2 で定義・規定される情報(このﾀｲﾄﾙは Exchange date formats で、その中身は ASCII とｺﾝﾊﾟﾁﾌﾞﾙなﾃｷｽﾄにてﾃﾞｰﾀｰ種類とその記載順番を規定しているもので、現在は IS になっている。)を、その使いやすさを追求して、情報を電子ﾌｧｲﾙ形式でやりとりできるように規格化した Part-7(XML ﾌｧｲﾙ形式)と Part-8(EXPRESS ﾌｧｲﾙ形式)が現在 TR として存在しています。しかし、IEC 側には協力要請はしているものの、その電子化の準備がｴｷｽﾊﾟｰﾄ人材不足で遅れており、今すぐにでもこの IEC62258 規格を使用したいとの欧米のﾆｰｽﾞから、今回は人が容易に、その主だった情報を読める形式として Part-10(Die data sheet)を作り、それを TR として CD 提案できるﾚﾍﾞﾙまでに作りあげました。
問題点：
②62258-Part-9；今回のﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ会議で欧州から Visual Inspection(目視検査、通常は外観検査)が提案されました。これは以前から欧州側がやりたい（規格化したい）といっていたものですが、問題点として、OK/NG の判断を人の視覚に全面的に頼るものなので、最も規格化しにくいものの一つです。さらにもうひとつの問題として、今回のﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ会議でも意見が出ましたが、異なる用途(応用 Application の意)に対して、同じ基準（OK/NG の判断のもと）は使えないだろうということです。（簡単に言うと、一般の民生機器用途と、自動車や宇宙関連機器用途では、同じｽﾍﾟｯｸを使う事はあり得ないということです。）ﾍﾞｱﾀﾞｲの外観規格は、現時点では多くのﾒｰｶｰとﾕｰｻﾞｰが独自の基準を持っていてそれを使ってﾋﾞｼﾞﾈｽを行っていると思い、今回、国際版を作るにあたり幅広く意見を聞いてそれを取り入れるために、JEITA 関連委員会にもﾘｴｿﾞﾝでお願いして審議してもらおうかと考えています。さらに多くのﾒｰｶｰにﾍﾞｱﾀﾞｲの外観不良見本写真を提供していただきたいと考えてます。今回のﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ会議では作業用ﾄﾞﾗﾌﾄをつくりましたので、まずは JEITA 半導体ﾍﾞｱﾀﾞｲ検討 PG で揉んでから提案していきたいと思います。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

様式 4

（社）電子情報技術産業協会
IEC 活動推進委員会　御中

運営委員会・資料番号：1-3／SC47A-①（事務局記入）

提出日：2008 年 4 月 14 日

（報告者記載）整理番号： H20SC47A①

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：齊藤　義行　　報告書作成者氏名：　市川 浩司　（会社名）　(株)デンソー

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC47A/WG2 (半角)
SC47A / WG2	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称 (日本語)	集積回路/デジタル IC
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催　□同時開催	
開　催　期　日	2008 年 4 月 9 日 ～ 2008 年 4 月 10 日		
開　催　場　所	（国名）フランス	（都市名）Nantes	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	三谷真一郎(日立製作所)	幹事国　日本	
参　加　国及び 参　加　人　数	5 ヶ国、 日本(6)、フランス（5)、ドイツ(3)、オランダ(1)、ポーランド(1)、参加人数（16）		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○三谷真一郎(日立),○横溝剛一(STARC),○市川浩司(ﾃﾞﾝｿｰ),中村篤(ﾙﾈｻｽ),齊藤義行(松下),和田修己(京大)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

1. 前回議事録の確認　　以下の二点の修正を行ない、承認された。
　① 開催場所　：EADS CCR を EADS IW に修正
　② PL　　：IEC 62433-3 を Mr. LAFON （仏委員）、IEC 62433-4 を Mr. MAROT（仏委員）に修正

2. 62433-2(ICEM-CE)審議
　国際幹事の指示に基き FDIS を作成するため FDIS 案を仏・日の 2 カ国で作成。事前にメンバからコメントを収集し、このコメントについて審議した。冒頭でコンベナが FDIS 案の骨子を各委員に説明した。コメントは 55 件(NL24,PL14,JP14)あり、全件の修正内容を確認した。会議結果を反映した修正版および仏語訳版を FRNC が用意し、4/19 までに FDIS として中央事務局に提出する予定である。また本 Document は IS として発行するが、速やかにメンテナンス審議を開始することを確認した(特に独委員からの強い要請あり)。

3. 62433-1(EMC Modeling、TS)
　本 Document の PL を NL の後任委員である Mr. TRAA が引き受け、引続き審議していくことを確認した。
　次回、東京会議では CD に対するコメントを審議する予定である。

4.62433-3(ICEM-RE)
　本パートはフランスより NP を出すことが 3 年前に決定されたが、現在審議が停止している状態のため、コンベナより仏委員に Document の用意が要請された。

5.62433-4(ICIM-CI)
　FRNC (Mr. MAROT) より NP の Presentation があった。ターゲットデートの設定：CD 2009 年、IS 2011 年。提案された Document の書式が古い、図と文章に矛盾があるなどの問題あるが、NP として審議を開始することが確認された。次回会議で審議予定である。

6. 47A/787/NP（日本提案の Unified wide range 規格案)
　コンベナが提案の意義（IEC 60748-2-20 より広い電源電圧範囲の標準化）と NP 添付のドラフトの概要を説明。電源電圧範囲を明示した方が良いとの意見があった。NP が成立した場合、次回の WG 会議での CD 審議のため、CD ドラフトを 7 月に回覧することになり、必用な手順をコンベナが進めることとなった。

7. 次回日程およびその他
　次回は東京会議（10 月 27～31 日のうちの 2 日間)。独委員より審議する文書が多く、時間が足りないとの意見が出された。また学会等と日程が重なり一部委員が出席できない可能性もあるため、日程の確認、調整を検討する。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
　国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
　会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会
IEC 活動推進委員会　御中

運営委員会・資料番号：1-3／SC47A-②（事務局記入）

提出日：2008 年 4 月 14 日

（報告者記載）整理番号：H20SC47A②

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：齊藤　義行　　報告書作成者氏名：　齊藤 義行　（会社名）松下電器産業（株）

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC47A/WG9 (半角)
SC47A / WG9	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称 (日本語)	集積回路／EMC 測定方法
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催　□同時開催	
開　催　期　日	2008 年 4 月 7 日 ～ 2008 年 4 月 8 日		
開　催　場　所	（国名）フランス	（都市名）Nantes	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Christian Marot（仮、仏委員）	幹事国　日本	
参　加　国及び 参　加　人　数	6 ヶ国、主な国名 日本(6)、ドイツ(3)、フランス（4)、オランダ(1)、ポーランド(1)、アメリカ(1：電話会議で参加)、参加人数（16）		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○中村篤(ﾙﾈｻｽ),○齊藤義行(松下),和田修己(京大),三谷真一郎(日立),横溝剛一(STARC),市川浩司(ﾃﾞﾝｿｰ)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

1. 前回（ツールーズ会議）議事録の確認　　議事録は修正無く承認された
2. 蘭委員の交代もあり、各プロジェクト（IEC 61967,62132,62215,62228）の PL、NP/メンテの発行目標年月を確認
・NP の発行目標年月に関して、オランダ担当（61967-7、62132-7、62215-1）以外、NP はすでに CO に提出済みであることを確認。メンテに関しては 47A/788/Q（メンテ要望のアンケート）の結果を集計後、次回会議で設定する。
3. IEC 61967-8、IEC 62132-8 の NP について
・両 NP とも上限周波数が 3 or 6GHz であり、新シリーズとすべきではないかという議論が行われたが、原理的に低い周波数から適用可能であること、新シリーズとして分けることにメリットがないことから、タイトルから周波数レンジに関する記述を削除し、それぞれ IEC 61967、62132 の Part 8 とすることとなった。
・名称「μ-stripline」が伝送路構造と同じ名前であり、混乱を招くことから、「IC stripline」に変更することとなった。
・ISO 61000-4-20 のストリップライン法と原理的に同じであり、本パートの中で 61000-4-20 を参照し、共通部分については整合させていくこととなった。
・62132-8 に関して、セプタム幅の異なるストリップラインでも特性インピーダンスを 50Ωに調整することで、デバイスの試験が可能となることを日本（ルネサス）より紹介。
4. IEC 62132-6：LIHA（Local Injection Horn Antenna）の NP のカバーシートを修正（周波数レンジの削除等）
5. IEC 62132-1 のメンテナンスについて
・2008 年より対象周波数を GHz 帯に拡張し、新パートの追加を中心にメンテナンスを実施することで合意
・具体的にはタイトルから周波数レンジを削除し Scope に記載、試験周波数の STEP 記述を GHz 帯に拡張等
6. LIHA を使った Emission 測定の Simulation 結果を TEM セルとの比較で紹介（FRNC）
・電界は TEM セルの方が感度は良く、磁界（特に 2GHz 以下）は LIHA の方が感度は良いことが示された。
7. NFS（Near Field Scan）データフォーマットの標準規格化について
・実測とシミュレーションの比較を容易にするため、NFS 測定器から出力するデータフォーマットを規格化したいという提案が FRNC より行われた　⇒　今後 TS に向けて、FRNC 内で調整後、NP が出される予定。
・担当する WG に関して、WG2/9 どちらがいいか議論されたが、結論は未定。
8. IEC 62215-3、62132-2 について　　米国委員と電話会議。内容について質疑を行い、何点か修正のうえともに NP として発行することとなった。62132-2 についてはタイトルから周波数レンジを削り Scope で記述する。
9. 次回の予定　　2008 年 10 月 27 日～31 日：東京（TC47/SC47A/WG2 と同時開催）

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　標準化センター

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：1-3／TC93-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 2 月 26 日

（報告者記載）予算番号：H19TC93②

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：山田 節　報告書作成者氏名：小島　智　（会社名）ＮＥＣシステムテクノロジー株式会社

出席会議名(半角)	区　分	組織番号(TC/SC/TA)	TC93 (半角)
WG2	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称(日本語)	デザインオートメーション
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催　☐同時開催	
開　催　期　日	2008 年 2 月 19 日 ～ 2008 年 2 月 21 日		
開　催　場　所	（国名）米国	（都市名）サンホゼ(カルフォルニア州)	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	WG2 ｺｺﾝﾍﾞﾅ：小島 智	幹事国　米国	
参　加　国及び 参　加　人　数	2 ヶ国、主な国名 日本、米国、参加人数（10）		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○小島 (NEC システムテクノロジー)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

<背景>電子機器・部品の設計や試験の仕様記述言語、機能や環境データの流通方式、等の標準化ニーズが大。

<目的>TC93 が先行実施している IEC/IEEE ダブルロゴ標準手順の定着迅速化、エキスパート確保、活動活性化、等の課題認識を踏まえつつ、上記標準に対する日本のニーズ織込みを図る。

＜成果＞TC93 国内委員会は JEITA や JPCA 等の関連委員会との緊密な連携をもって活動展開している。特に WG2 国内関活動は、JEITA EDA 技術特別委員会が実質的な運営をしており、小島特別委員が WG2 コ・コンビナとして国際標準化活動を推進すると同時に日本の意見反映をしている。
国際学会 DVCon2008 に併設し WG2 会議を開催し、米国 WG2 コ･コンビナーの Brophy 氏、TC93 セクレタリイ Berman 氏、IEEE DASC 委員と IEEE とのデュアルロゴの２００８年新規規格とメンテナンス規格について方針を決めた。

新規規格：
- IEEE1076-2007(VHDL)に続き IEEE1076-2008 が提案のため、1076-2007 は取下げる方針。IEC ナンバーは、夫々 61691-1-2 を予定。また、IEEE1076 の関連規格（1076.2、1076.3、1076.4 および 1164）は、IEEE1076-2008 に統合される。
- IEEE1800-2007(SystemVerilog と VerilogHDL 統合)。IEC ナンバーは、61691-6-2 を予定
- IEEE1801（Power Format)。IEC ナンバーは、61523-4 を予定。

メンテナンス規格：
- IEEE1481-1999(DPC)は IEC61523-1-2、IEEE1497-2001(SDF)は IEC61523-3-2 を予定。

次回は、６月に米国 Anaheim 開催の国際会議 DAC2008 で WG2 会議を開催予定。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後 [6週間以内] に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：1-3／CISPR-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 3 月 21 日

（報告者記載）整理番号：H19CISPR④

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：玉田正信　報告書作成者氏名：堀　和行　（会社名）ソニー(株)

出席会議名(半角)	区　分	組織番号(TC/SC/TA)	CISPR SC-I (半角)
CISPR SC-I WG4	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称(日本語)	マルチメディア機器等に関するEMC
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催　☐同時開催	
開催期日	2008 年 2 月 19 日 ～ 2008 年 2 月 21 日		
開催場所	（国名）デンマーク	（都市名）コペンハーゲン	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	John Davis	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	12 ヶ国、主な国名 英国、フランス、イタリア、デンマーク、ドイツ、米国、参加人数（36）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] 雨宮 不二雄(NTT アドバンストテクノロジ(株))、山口 高(日本 IBM)、○堀 和行(ソニー(株))		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

背景：マルチメディア機器に対するイミュニティ規格 CISPR35 の 1st CD 文書(CISPR/I/225/CD）が 2007 年 3 月に回付された。それに対する各国委員会コメント(CISPR/I/236/CC、約 800 件)をうけ、今回、修正された次期文書 2nd CD 案が準備され、審議を行った。主な決定事項を以下に示す：

(1) 複数測定法に対する扱い：「複数の試験方法を記述する場合は、規準（reference）を決める」という昨年 9 月の SC-I シドニー会議での決定をうけ、放射イミュニティ試験では IEC61000-4-3/-20/-21 のうち、IEC61000-4-3 規格を参照試験とする。掃引周波数ステップは、4%より 1%増加を規準とすることが確認された。

(2) 静電気放電イミュニティ：日本から CISPR 24 決定時の背景説明とともに、CISPR 24 で規定される ESD 印加回数、印加ポイントの採用を再度提案したが、多数意見として基本規格 IEC 61000-4-2 をベースとすることになった。

(3) 放射イミュニティ：5GHz(スポット周波数)までの試験を任意試験とする提案があったが、否決され、必須要求を明確にすることになった。

(4) 広帯域インパルスイミュニティ：IEC61000-4-4 と IEC61000-4-6 をベースにした 2 つの試験法が提案されていたが、最新案では IEC61000-4-4 は削除され、規準の決定は不要となった。最新案では Repetitive Impulse Noise disturbance と Isolated Impulse Noise disturbance2 つの測定法、および、ホワイトノイズ信号発生器が提案された。参照規格はいずれも IEC61000-4-6 で CDN 法がベースとなっている。日本より、Broadband 通信は xDSL だけではないので、注意文の追加を依頼し、以下の文書が追加されることになった：　Should be considered for other broadband systems e.g. PLT

(5) プリント機能試験時の判定基準 B としてオペレータ介入による簡単な操作は良いが、ペーパジャムは認められないことが確認された。

(6) 放送受信機能：CISPR20 で規定されている放送受信機関連の除外、緩和規定を Annex H に盛り込むことになった。オランダの委員が担当する。

(7) PLC 機器へのイミュニティが ANNEX X として提案された。参照規格は、IEC61000-4-4,-5, -6,-11 で、基本的には電源ポートと PLT は同じ限度値、判定基準を適用すべきとのコメントがだされた。

今後の予定：4 月に 2 nd CD を発行する予定。3 ヶ月間各国 CISPR 委員会よりコメントを募集し、08 年 10 月 23～24 日に大阪にて審議。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：1-3／TC113-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 4 月 13 日

（報告者記載）予算番号：H20TC113①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：春日壽夫　報告書作成者氏名：　春日壽夫　（会社名）NEC エレクトロニクス(株)

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC113 (半角)
IEC/TC113WG3	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称 (日本語)	ナノエレクトロニクス
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	

開催期日	2008 年 4 月 8 日 ～ 2008 年 4 月 9 日	
開催場所	（国名）日本	（都市名）東京
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Werner Bergholz/吉田二朗	幹事国　ドイツ
参加国及び参加人数	5 ヶ国、主な国名 日本、ドイツ、米国、英国、台湾(ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞ)　参加人数（18）	
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] 吉田（東芝）、開（東芝）、春日（NEC ｴﾚｸﾄﾛﾆｸｽ）、木村（日立）、柿林(日立ﾊｲﾃｸ)、後藤（経産省）、湯村（産総研）、馬場（NEC）、遠藤（NEC）、長谷川（NEC）、窪谷／佐藤（JEITA）	

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

１．背景：WG3 は電子機器用のﾅﾉﾃｸﾉﾛｼﾞ（ﾅﾉｴﾚｸﾄﾛﾆｸｽ）に関する性能評価方法の標準化を担当、第 3 回目の会議

２．今回の審議のトピックス（目的と成果）

①ドイツ提案の電子機器応用品のためのカーボンナノチューブ(CNT)をユーザが購入する場合の特性評価用仕様表（Blank Specification)をまとめたガイダンス（IEC 62565 Ed.）[113/14/NP、113/25/RVN]→1st CD

・本件は、ユーザの観点での CNT を購入する場合の基本仕様表（Blanc Spec)を標準化しておく目的で、特性評価項目をきめ、然るべき測定方法があれば記載する親規格案

・但し、測定方法につき、測定方法については ISO/TC229 で検討中であり、未確定要素が多く今すぐに引用できるような測定方法はないこと、且つ一項目の測定でも一測定方法ではなく幾つかの試験方法組み合わせで測定することもある等々を主張した結果、WG3 としては、本件はドイツが昨年 3 月以来強く要望していた IS（国際標準規格）としては未成熟状況であるとして、TS とすることで各国に確認することを合意して CD へ

②IEC/TC113 の国際標準規格活動テーマ調査

・TC113 における活動テーマの優先順位を決定するための調査の準備が進んでいることが紹介された。

・米国とドイツ等の欧米中心メンバで活動が始まっていたことから、日本もメンバとして参加することした。

③米国 NIST（国立標準技術研究所）が主催し ISO/IEC が共催する形でのナノテクノロジの特性測定方法の標準化に関する国際ワークショップ（２月）が紹介）：

④日本からの基調講演

・日本におけるカーボンナノチューブに関する技術開発に付いて紹介（産総研）

・日本の NBCI(ナノテクノロジービジネス推進協議会)で検討されているビジネス/技術ﾛｰﾄﾞﾏｯﾌﾟが紹介された(NEC ﾅﾉｴﾚ研馬場 EE が発表)

５）次回開催

10-11 November 2008: Washington, D.C. USA と決まった。

《所感：課題》

・米国は国家戦略として技術開発と標準化の取組みを、IEEE(学会)、SEMI(工業会)、UL（安全認証業界）と連携して、欧米中心にビジネス観点で戦略的に活動（NIST の活動）している。日本の企業は個別に参加しているが、国としての取組みは弱い

・日本のナノテクノロジに関連している企業が JEITA（産業団体）を使って、ナノテクノロジに対してのビジネスに取り組んでいく戦略とその中での「知財と標準化」戦略の検討が必要

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

㈳電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：1-3／TC113-②（事務局記入）　　様式 9
国際標準化対応支援委員会　御中

提 出 日：	2008 年 4 月 15 日
予算番号：	H20TC113①

国際会議日本開催
経費収支報告書

1. 組　　織：　番　号　　TC113
　　名　称（日本語）　ナノエレクトロニクス

2. 会　　議　名：　（☒単独開催　☐同時開催）
　　☐TC　☐SC　☐TA　☒WG　☐PT　☐その他

3. 開　催　期　日：　2008 年 4 月 8 日 ～ 2008 年 4 月 9 日

4. 開　催　場　所：　(社)電子情報技術産業協会

単位:円

収 入 の 部		支 出 の 部	
科　　目	金　額	科　　目	金　額
国際標準化対応支援委員会	159,760 円	会議室代	160,000 円
IEC/TC113 国内委員会	239,640 円	昼食代・茶菓代	88,200 円
	円	懇親会費	151,200 円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
合計（a）	399,400 円	合計（b）	399,400 円
		（a）－（b）	0 円

補助限度額:［会議出席者数（日本人登録メンバー5 人＋外国人 8 人）］×会議開催日数 2 日×1.5 万円＝39 万 円

補助請求金額　159,760 円
［補助基準･運用規定の補助率 (40 %)。上限は 300 万円。］

以上の通り報告致します。　　2008 年 4 月 15 日
申請責任者：　吉田二朗

※本報告書は、(様式4)「国際会議報告書」に添付して下さい。

（TSC-06 様式 2007.9）